

補強土壁点検台帳

補強土壁点検台帳への記録

テールアルメ壁の点検の記録は、対象となったテールアルメ壁の諸元、点検概要および点検項目などをできるだけ詳細に記録し保存する。点検の結果については、補強土壁点検台¹⁾に記録し、また必要に応じて点検表記録様式 道路土工構造物に整理するものとする。

以下に補強土壁点検台帳の主な記録項目を記す。

(1) 補強土諸元

施設（路線）：施設（路線）名称またはあ工事名称

緯度・経度：測地系は世界測地系とし、10進数式で小数6桁まで記録

補強材種：補強材の規格（平滑ストリップ、リブ付きストリップなど）

壁面材種：壁面材の規格（コンクリート、鋼製材など）

盛土材：現地発生土、購入土、改良土または土質区分

嵩上げ盛土：嵩上げ盛土が設置されている場合、その高さおよび勾配

基礎形式：布基礎、重力式基礎等

壁前面↔路肩：壁表面から上載道路または、壁前面道路肩までの水平距離

立地条件：点検対象となるテールアルメ壁の立地条件および形式

(2) 点検概要

点検の種別（通常、定期、非常時、その他）を記録する。災害等の非常時の場合はその種別や規模等を詳細に記録する。

(3) チェック項目（点検項目）

項目ごとに異常の有無（または未確認）を記録する。概要欄には確認された異常の位置、形状、個数または寸法などをできるだけ詳細に記録する。

(4) 図面、写真、スケッチ等

点検対象となるテールアルメ壁の現状を、位置図、図面、写真およびスケッチ等で記録する。平面図のほか、必要に応じて断面図を示すとよい。当様式に収まらない場合は、別紙にまとめ添付してもよい。

(5) コメント・総評

テールアルメ壁の変状の状態や、後述する変状要因の推定および推定に至った理由等を記録する。

(6) 判定

変状の規模や変状要因の推定により、異常の有無を判定する。

【参考文献】

1) 国立研究開発法人 土木研究所ほか：補強土壁の維持管理手法の開発に関する共同研究，2016. 03

